

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：14401
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2010～2013
課題番号：22700841
研究課題名(和文) 疾病史アーカイブズ論の創成：疾病史史料のアーカイビングと公開のための萌芽的研究

研究課題名(英文) Constructing a New Archival Science Theory Based on Medical Materials

研究代表者

廣川 和花 (Hirokawa, Waka)

大阪大学・適塾記念センター・准教授

研究者番号：10513096

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、疾病史資料に関する基礎的な情報の収集と、それを基礎として具体的な資料に即した疾病史資料のアーカイビングの方法論検討と実践を行った。本研究の成果報告として『大阪大学アーカイブズ所蔵 大阪皮膚病研究会関係文書目録』を刊行し、インターネットでも公開した。本研究成果の発信により、疾病史資料が新たな概念規定をともなって認識されることとなり、今後史料の発掘・目録化・公開の重要な指針となると期待される。

研究成果の概要(英文)：This research project collected information on the medical historical materials spread over Japan and examined its archival theories in consideration of their own characteristics. The result of this study has published and uploaded on the researcher's website (http://researchmap.jp/muvk21f6u-41113/#_41113) as the catalogue of a series of medical materials related to Hansen's disease, with its introduction and access guidelines for users. It would be a basic reference in constructing other medical archives and provided them more effectively for users in Japan.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史

キーワード：医学アーカイブズ アーカイブズ カルテ 公文書管理法 症例誌 医療情報 大学史資料

1. 研究開始当初の背景

(1) 新しい医学史研究の動向

歴史学分野では、主に社会経済史・環境史との関連で、疾病史・医療史・医学史研究が近年著しい進展を見せている。

(2) 史料利用に関する問題点

このような人文学の領域を越えた幅広い対象を歴史的に考察するにあたっては、従来の史料論とは異なる学際的で新たな方法論が不可欠である。また、罹患歴・医療受給歴などのセンシティブ情報を含むために、疾病史資料の公開には多大な制約が科せられており、研究の進展の大きな足かせとなっている。

2. 研究の目的

(1) 問題点が生じている理由

医学史資料の利用における制約は、アーカイブズ論においても、病院や医療機関・自治体・個人が所有する疾病史資料が歴史史料として保存活用されるべき固有の価値を持っていることが十分に認識されておらず、またその整理や公開についての包括的な議論の必要性が認識されていないということに由来している。すなわち、日本では、歴史研究の側にも、アーカイブズ学研究的側にも、疾病史資料について実践的・理論的な研究がきわめて乏しいのが現状である。

(2) 問題点克服の方向性

上記に鑑みて、本研究では、海外の事例も参照し、具体的な史料に即して考察することで、医学史研究とアーカイブズ学研究的双方の知見を発展・融合させ、疾病史史料の史料論を創成することを提起することとした。

3. 研究の方法

(1) 基本方針

本研究課題は各段階に相応しい研究協力者(医学史研究者、歴史研究者、アーカイブズ学研究者、アーキビスト、医学研究者など)の助言を得て、共同作業・討議を経て進められた。

(2) 疾病史資料の所在情報の収集・調査

日本国内の疾病史資料は、アメリカの国立図書館のような場所にまとめられておらず、また所在等についての情報すらまとめられていない。そこで、各地にどのような疾病史資料が存在し、目録等が刊行されているかについて調査を実施した。

(3) 史料整理と疾病史資料論の構築

具体的な資料に即して目録作成と公開指針を作成するため、大阪大学アーカイブズ(研究開始当初は大阪大学文書館設置準備室)所蔵の「財団法人大阪皮膚病研究会関係文書」を用いて目録作成・写真撮影・公開指針の検討を行った。研究の実施中に、追加の資料寄贈もあり、合わせて対応を検討した。

(4) 疾病史資料の目録公開

「財団法人大阪皮膚病研究会関係文書」に即した形で、疾病史アーカイブズ論として論考をまとめ、公開した。

大阪大学アーカイブズと協力して「財団法人大阪皮膚病研究会関係文書」目録を刊行・公開し、疾病史資料の保存・公開に関する実際の手続きを開始した。

4. 研究成果

(1) 疾病史資料学の創出

本研究の成果報告を兼ねて、『大阪大学アーカイブズ所蔵 大阪皮膚病研究会関係文書目録』を刊行した。ここには下記の内容を収録した。

・論考編

「解題 大阪皮膚病研究所によるハンセン病医学研究・医療活動とその関係文書のもつ意義」(廣川和花)

「大阪大学アーカイブズにおける「大阪皮膚病研究会関係文書」の公開にあたって」(廣川和花・菅真城)

・参考資料編

「大阪大学アーカイブズ規程」

「大阪大学アーカイブズ歴史資料等利用内規」

・目録編

「大阪皮膚病研究会関係文書目録」

疾病史資料に焦点を当てた本研究成果の発信により、疾病史資料が新たな概念規定をとって認識されることとなり、今後史料の発掘・目録化・公開の重要な指針となると期待される。

(2) 市民に開かれた情報公開の促進

本研究では、史料整理や目録刊行にとどまらず、史料の公開指針を具体的に提示した点にある。疾病史資料に適合的な方法論でアーカイビングされた史料が、研究者のみならず広く調査研究を必要とする市民の利用に供されることになった。特筆すべきは、「財団法人大阪皮膚病研究会関係文書」に含まれる個人の医療受給歴に関する資料が、元患者の権利回復(給付金の受給資格の証明)に利用されうる証拠書類となることが明らかになり、目録公開によってこの施策の対象となる元患者等にも利用可能となったことである。

(3) 近接分野への貢献

疾病史資料論は、歴史学・医学史研究においては史料利用を促進する原動力となり、研究の進展を促すものとなる。一方アーカイブズ学においては資料論の新分野を切り拓くこととなる。また、近接分野である医療倫理学・医療社会学・情報倫理学等においても資料の取り扱いにおいて応用可能なものである。

(4) 現代の医療情報の取扱い指針への貢献
歴史史料に限らず、現代社会において医療情報の取扱いはきわめて関心が高い問題であり、医療情報倫理の分野においても今後先駆的な成果として影響力を持つこととなるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

廣川和花、ハンセン病歴史研究のパーспекティヴ：書評へのリプライにかえて、歴史科学、査読無、211号、(2013) 12 - 17

廣川和花、「研究集会 医療をめぐるアーカイブズ」参加記、アーカイブズ学研究、査読無、18号、(2013) 46 - 49

廣川和花、ハンセン病疫学と近代日本の地域社会、歴史評論、査読有、746号、(2012) 59 - 75

廣川和花、近代日本の疾病史資料の保存と公開にむけて：ハンセン病歴史資料を素材に、精神医学史研究、査読無、16巻1号、(2012) 41 - 46

廣川和花、近代大阪のペスト流行にみる衛生行政の展開と医療・衛生環境、歴史評論、査読有、726号、(2010) 19 - 31

[学会発表](計11件)

廣川和花、フィールドサイエンスと医療政策 1930年代のハンセン病疫学の営み、科学コミュニケーション研究会第28回関西支部勉強会、2013.2.13、大阪大学

廣川和花、医学がフィールドにでるとき 戦前・戦中期におけるハンセン病疫学調査と「検診」活動、病と社会・環境・科学技術に関する近代史研究会、2013.1.27、立命館大学

Waka Hirokawa, The Linkage of Hansen's Disease between Pre-modern and Modern, Inside and Outside Japan, The Sixth Conference for the Asian Society for the History of Medicine, 2012.12.14, Keio University

Waka Hirokawa, Treatment Places and Living Places: The Circumstances of People with Hansen's Disease in Modern Japan, British Association for Japanese Studies Conference, 2012.9.7, University of

East Anglia, UK

Waka Hirokawa, From Rural to Urban Communities: Reconsidering the Epidemiology of Hansen's Disease in Modern Japan, Japan at Chicago: Medicine, Politics, and Culture in the Japanese Empire, 2012.5.11, University of Chicago, US

廣川和花、近代大阪における疾病と地域社会 都市のハンセン病問題と大阪皮膚病研究所、国際シンポジウム 東アジアにおける都市社会史への視点 上海と大阪を中心に、2012.3.2、上海大学、中国

廣川和花、疾病・医学・医療の歴史と地域社会 近代日本のハンセン病問題を素材に、歴史科学協議会大会、2011.11.27、立教大学

廣川和花、近代日本の疾病史資料の保存と公開にむけて ハンセン病歴史資料を素材に、第15回精神医学史学会、2011.10.30、愛知県立大学

Waka Hirokawa, A Colony or a Sanitarium? A Comparative History of Segregation Politics of Hansen's Disease in Modern Japan, Science, Technology, and Medicine in East Asia: Policy, Practice, and Implications in a Global Context, 2011.10.8, Ohio State University, US

廣川和花、近代ハンセン病歴史研究のパーспекティヴと書評へのリプライ、大阪歴史科学協議会7月例会、2011.7.17、福島区民センター

Waka Hirokawa, Understanding Modern Japan Through Epidemiological Patterns of Hansen's Disease (Leprosy), 1880s-1950s Asian Studies Conference Japan, 2011.6.25, International Christian University

[図書](計1件)

廣川和花、廣川和花、大阪大学アーカイブズ所蔵 大阪皮膚病研究会関係文書目録、(2013) 116頁
http://researchmap.jp/muvk2lf6u-41113/#_41113
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/ed_support/archives_room/files/skin_list.pdf

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

http://researchmap.jp/muvk2lf6u-41113/#_41113

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/ed_support/archives_room/files/skin_list.pdf

6 . 研究組織

(1)研究代表者

廣川 和花 (HIROKAWA WAKA)

研究者番号：10513096

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：